

百力日

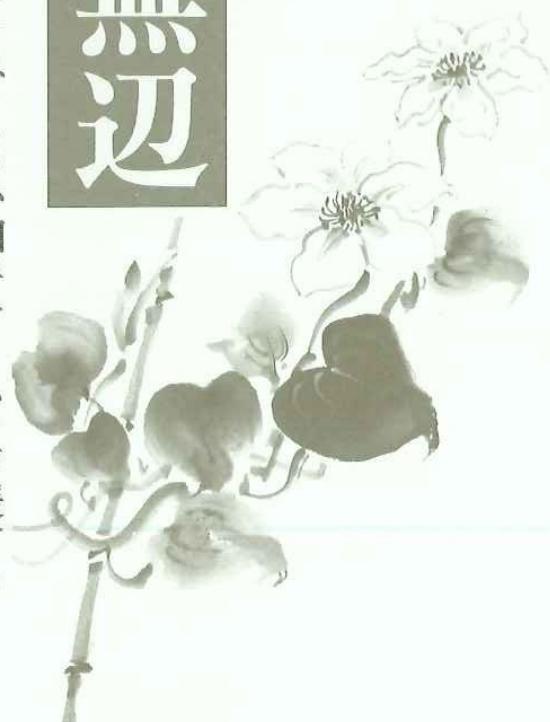
ひやっかにち

高校野球のテレビ中継で、大活躍した選手の両親がインタビューを受け、「息子のことより、チームが勝ったほうが嬉しい」と語っていました。それを見て同じような経験をもつお父さんが「立派だなあと皮肉まじりの感想を洩らしました。自分の場合、とてもチーム本位どころか、自分の子供の働きばかりが気になつたというのです。むしろ、チームの勝敗より、自分の子がいいところを見せてもらいたい」というのが、本音だったと告白しました。もちろん、どちらも本心にはちがいなく、どちらも、

「親心」をいいあらわして
共感をおぼえずにはおれません。しかし、わが子だけ

しか頭にな
かつたお父

拯済無辺



派だ」とうならせたお父さんにとっても、まさか相手チームを声援するという気には、とうていなりません。それが人情といふものでしよう。そうした人情の世界での限界を思うにつけ、み仏の誓願の尊さ、たのもしさを仰がずにはおれません。み仏の拯済（お救い）は、ほとりなく（無辺）およぶと宗祖・親鸞聖人はよろこばれました。ここまで、という限界はなく、むしろ罪深いわれら、心のよごれきつたわれわれ（極濁惡）を、この上もなくかなしんでくださつて、救わざにはおれないと、み仏の誓願だからです。